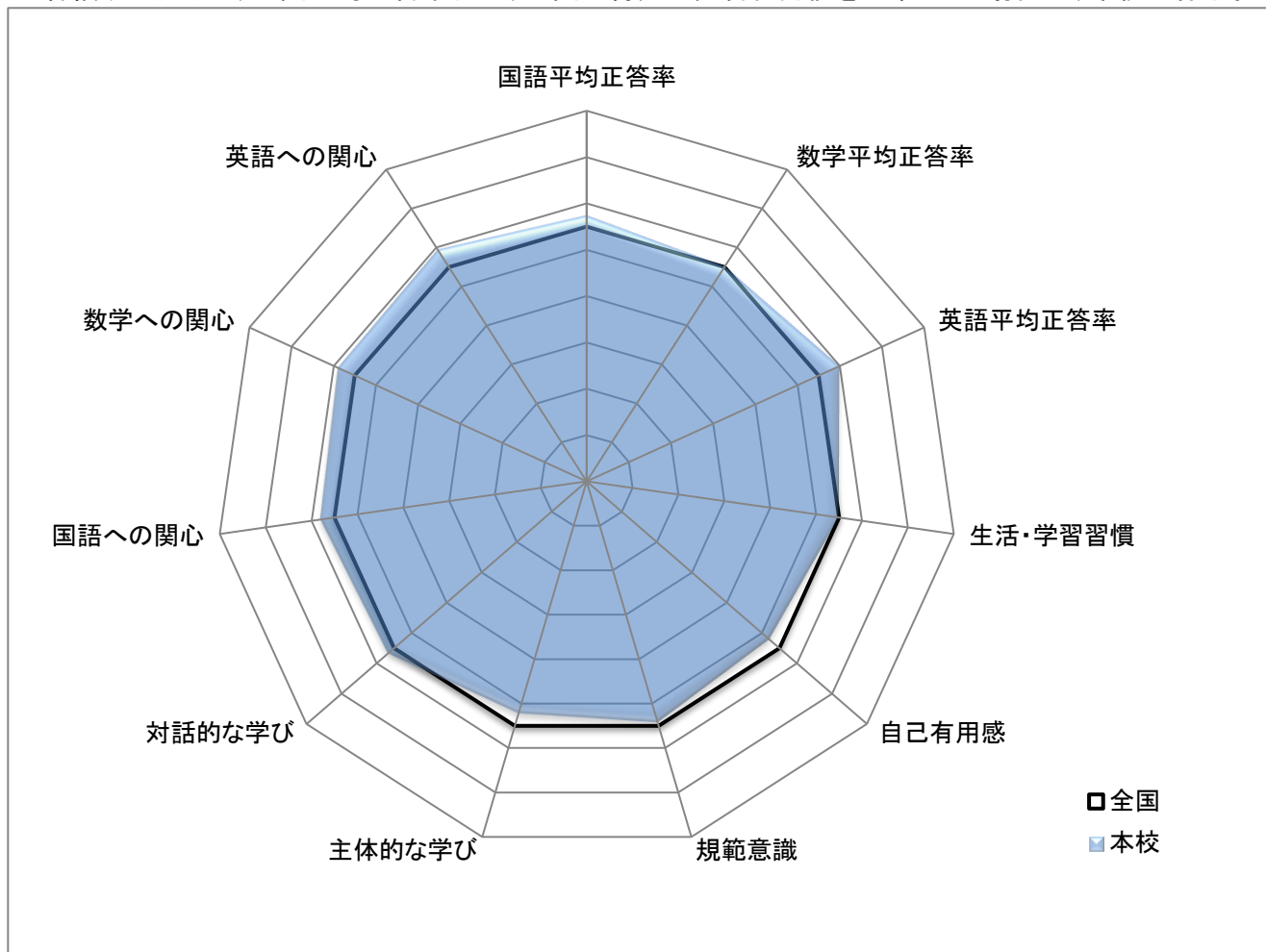


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は、言葉の特徴-1.2%、情報の扱い方+6.1%、言語文化+2.3%、話すこと・聞くこと+4.4%、書くこと+1.0%、読むこと+3.7%だった。数学は、数と式+2.8%、図形+1.4%、関数+1.0%、データの活用-7.8%だった。英語は、聞くこと+3.6%、読むこと+5.2%、書くこと+4.6%、話すこと+0.3%だった。(全国比)英語は全体的に全国の平均を上回っている。国語と数学は全体的に全国平均を上回るが、一部全国平均を下回る分野もあった。

《授業改善のポイント》

国語では、書くことに重点を置いて、意見文や作文の指導を推進する。読解のポイントや表現の方法を身につけさせる。話すこと・聞くことにおいて、段階に合わせて目標を提示する。場に応じて適切な語句や表現を選ばせ、客観的な視点を持たせるようにする。数学では、一人一人に細かな指導を行い、問題解決型の授業や小グループによる学び合いの実践を行う。自分の考えを発表・説明する時間を確保する。英語では、反復学習による、基礎基本・既習事項の定着を図る。発表する機会を設け、自分の意見を英語で述べる力の定着に努める。

《チャートの特徴》

全国平均正答率と比較すると、国語+3.2%、英語+4.4%と、全教科で全国平均を上回り、数学は全国平均と同じ結果になった。また、全教科とも教科への関心が高い(全国比で、国語1.06倍、数学1.08倍、英語1.09倍)。教科への関心と正答率が相対するものと考えられる。一方で、生活学習習慣(全国比0.94倍)、自己有用感(全国比0.98倍)、主体的な学び(全国比0.86倍)、対話的な学び(全国比0.94倍)、は、全国平均を下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

定期考査の学習計画表や振り返りシートを通して、学習習慣の確立を図る。進路に関する情報を発信し、関心を高める努力をする。学校だより、保健だより、学年通信等を通して、生活習慣の改善をよびかける。